

■ VISTA 1 ユーザーレポート

株式会社テレビ西日本 様

VISTA 1 - 22

TNC テレビ西日本

可搬卓として VISTA 1 を導入



株式会社テレビ西日本
技術局 映像センター 映像部
塩月 晃

962 の更新

当社には、中継用の 962 及び 961、MA 室の 928、サブ/音声の中継車には D19MicAD など、スチューダー製品がたくさんありますが、その中のひとつ、962 のカスケード仕様 (14+14=28ch) が今年、更新年度を迎えました。タイミングよく VISTA 1 という可搬卓が出る話を伺い、本格的に導入を検討することになりました。今年度は第 1 サブ音声設備更新というビッグイベントもあり、工事中の仮設運用の際の入出力も意識しつつ、仕様を考えました。もちろん他社製品も検討しましたが、この予算内でここまでのポテンシャルを持つライバルは事実上皆無であり、VISTA 1 以外の選択肢はありえない感じでした。しいて言えば、スチューダーのデジタル卓は当社にはまだ 1 台もありませんでしたが、在福の各局さんや系列各局には既に何台も VISTA シリーズが導入されており、その評判はよく聞いていましたので、基本的にまったく心配はしていませんでした。

ステージボックス

せつかくの可搬卓ですので、ステージボックスを

追加しました。32ch マイク・ライン入力に加え、仮設運用時を考慮し、8 AES I/O を装填するアナログ混合仕様としました。光 MADII はもちろんシングルモード。カメラケーブルを使えるように、ラック内に OPS-SC コネクタ変換を組み込んだコネクタパネルを製作しました。カメラケーブル経由で電源を送れるよう「ローカル⇄カメラケーブル」電源セレクトを装備させ、送り側には電圧降下に対応できるように 100→240V ステップアップトランスも用意。また、アナログは標準でキャン仕様なのですが、現場での使い勝手を考えて、あえて FK マルチ (16ch) を接続できる仕様としました。

コンパクトリモート

日本初導入となるコンパクトリモート・オプションも入れました。仕事によっては、2マン・オペレートもできるようにしたかったからです。また、これを使うことでオフラインで事前の仕込み作業が行えるというのも、とても魅力的でした。VISTA 1 の 22 フェーダー仕様はコンパクトではあるのですが、それでも実機での仕込み作業の際はケースから出す必要があるわけで、それをしなくて済むのはとてもありがたいことです。

初運用

初運用は 10 月 6 日博多スターレーンで行われた

“プロレス新伝説 DRAGON GATE” というプロレスの中継収録でした。会場に音声の中継車を置くスペースがないため、5ナンバーのハイエースを使用しました。3 列目シートを畳み、その上に VISTA 1 を設置しました。卓を車に乗せる時は 3 名で行い、さすがに若干重たかったですが、ケース底板の幅が車両とちょうどよい形となり、以前のアナログ卓 2 台カスケード運用より幅ではあるものの、インプット系にインサクション必要のない VISTA 1 はぴったり形で収まります。VISTA 1 に合わせた特注台に 8 連 VU 計とスピーカーを設置し快適なミックス環境を構築できました。前日に操作方法の説明を聞きつつ、チャンネルプランを見ながらセッティングを済ませてあったこともあり、試合が進むにつれ、だんだん VISTA の作法のようなものがわかってきて、ミキシング作業に集中できるようになりました。これから様々な場面でこの可搬卓を活躍させたいと思っています。

